



LIXIL シリンダーPA錠、PB錠



取付説明書

- このたびは、当社製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
- この取付説明書に示した表示記号の内容は、製品を安全に正しく施工していただき、あなたや他の人々の危害や損害を未然に防止するためのものです。
表示記号の内容を良く理解したうえで、本書の内容(指示)にしたがってください。
- この取付説明書では、次のような記号を使用しています。

安全に関する記号 記号の意味

-  **警告** ●取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負うおそれのある内容を示しています。
-  **注意** ●取扱いを誤った場合に、使用者が中・軽傷を負うおそれのある内容、または物的損害のおそれがある内容を示しています。

一般情報に関する記号

-  **ポイント**
 - 取付手順で、特に注意して作業をしていただきたいことを示しています。
 - 守っていただかないと組付けができない内容、または製品全体に後々不具合が発生するおそれのある内容を示しています。
- ※
 - 取付説明の内容全体(個々の説明枠)にかかる注意事項を示しています。
 - 取付説明の内容に制限がある場合の条件を示しています。
-  **補足** ●説明の内容で知っておくと便利なことを示しています。

<施工の前に>

警告

- ※製品破損、倒壊による人への危害・物的損害が想定されますので、下記の事項をお守りください。
- 門扉は人や車の出入りする場所に設置するものです。使用用途・目的を踏まえた上で必ず安全な場所に設置してください。特に開閉時の扉が公道(道路面)に飛び出さないようにしてください。

注意

- ※製品破損、倒壊による人への危害・物的損害が想定されますので、下記の事項をお守りください。
- 製品の施工には、危険を伴う場合がありますので、必ず専門の工事業者による施工をお願いします。
- ボルト、ネジは弊社純正品の規定本数を使い、固定した後にゆるみがないか確認してください。製品の強度低下、またはケガの原因となります。

ポイント

- 正しく施工、組付けをするために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
- 製品の施工については、必ず取付説明書にしたがってください。
- 施工終了後、取扱説明書は施主様にお渡しください。

<施工上のご注意>

注意

- ※製品破損、倒壊による人への危害・物的損害が想定されますので、下記の事項をお守りください。
- 施工終了後は扉の開閉チェックを行ない、不具合がないか確認してください。

ポイント

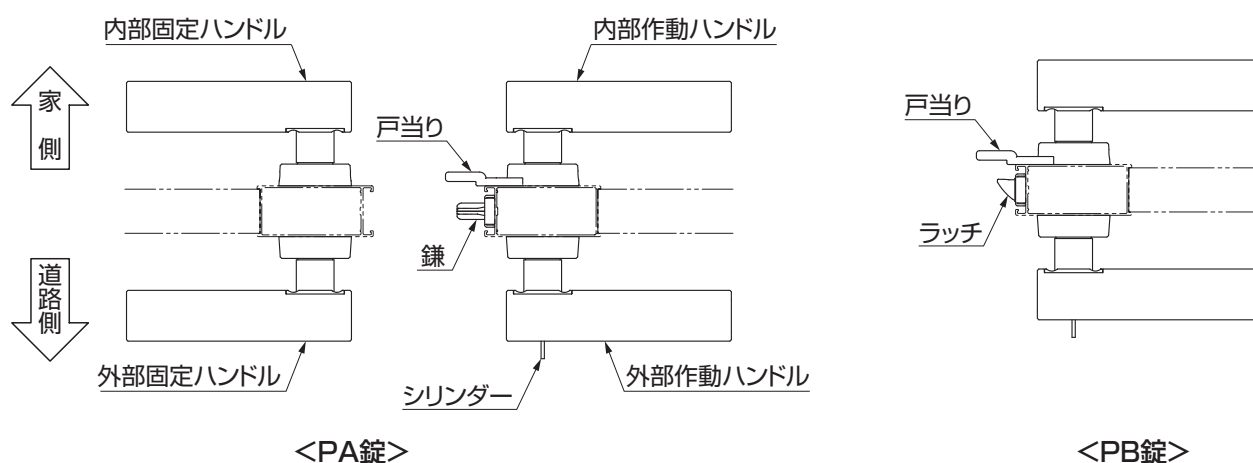
- 施工工事にあたっては、安全に施工を行なってください。
 - ・作業服および保護具(保護帽、安全帯、眼、耳、手、足の保護具)を正しく使用してください。
 - ・作業場所の整理整頓を行なうとともに、安全確保を行なってください。特に高所作業での安全確保、倒壊防止、照明による照度の確保など。
 - ・器具、工具、保護具などの機能を確認し、使用してください。

■ 梱包明細表

【1】錠セット

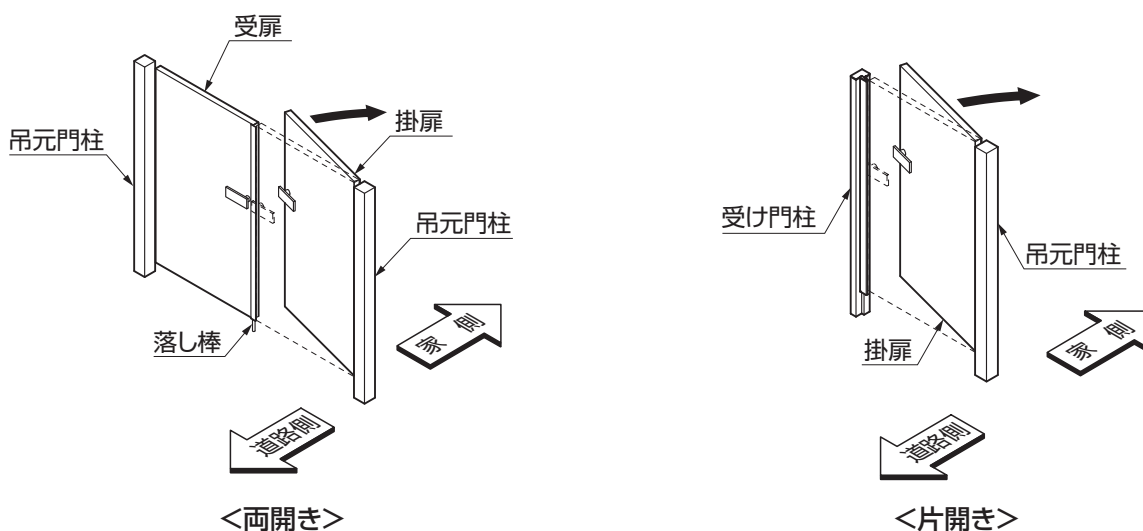
名 称	略 図	員 数			
		PA錠		PB錠	
		両錠	片錠	両錠	片錠
作動ハンドル		1	1	1	1
固定ハンドル		1	-	1	-
PA錠(機構部)		1	1	-	-
PA錠(両錠受け)		1	-	-	-
PA錠(片錠受け)		-	1	-	-
PB錠(機構部)		-	-	1	1
PB錠(両錠受け)		-	-	1	-
PB錠(片錠受け)		-	-	-	1
サムターン		1	1	1	1
シリンダーキー		3	3	3	3
【1-1】φ4×12サラタッピンネジ3種		4	3	4	3
【1-2】φ3×25ナベタッピンネジ1種		1	1	1	1
【1-3】φ4×25サラドリルネジ		-	1	-	1
取付説明書<A589>	-	1	1	1	1
取扱説明書<UA214>	-	1	1	1	1

■ 各部の名称 ※図は右勝手内開きを示します。



1. 施工の前にご確認ください。

本セットの出荷状態は右勝手内開き用になっています。
扉の勝手が右勝手内開き以外の場合は、**勝手向き**の組替えが必要です。



ポイント

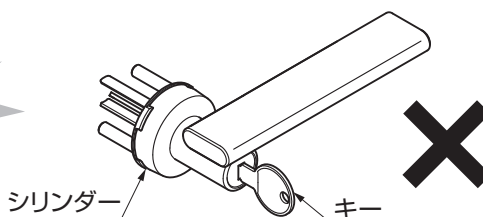
- 扉の勝手開き方向を変更する場合は、「2.勝手別の取付変更について(P.4)」を参照して勝手を組替えてください。
- 施工の際は、電動ドライバーは使用しないでください。
部品破損のおそれがあります。
必ず手動のドライバーをご使用ください。
また、施工手順の説明に従い、適切な道具を使用してください。



注意

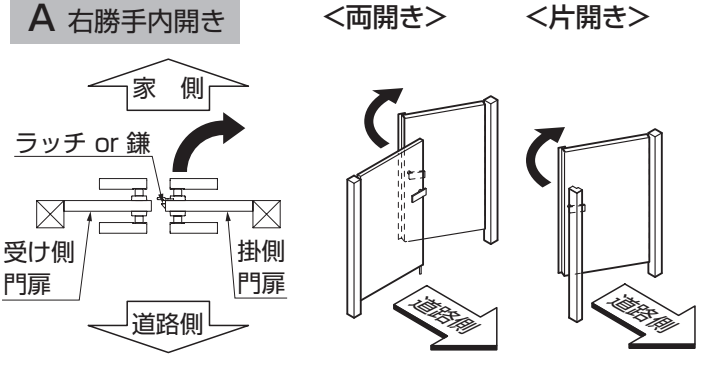
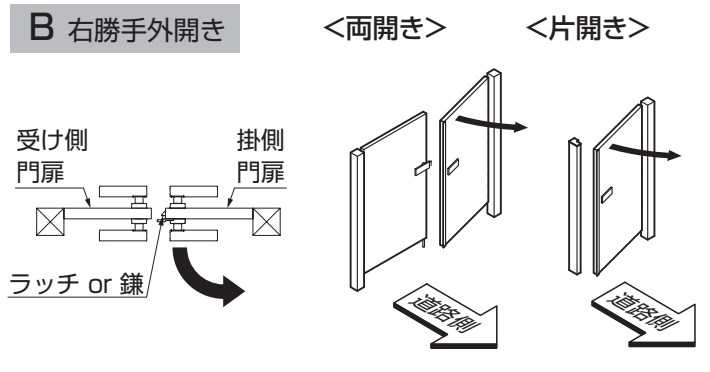
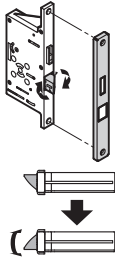
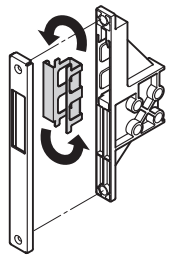
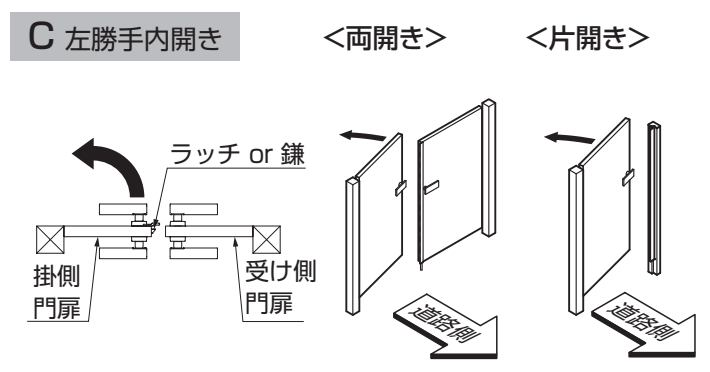
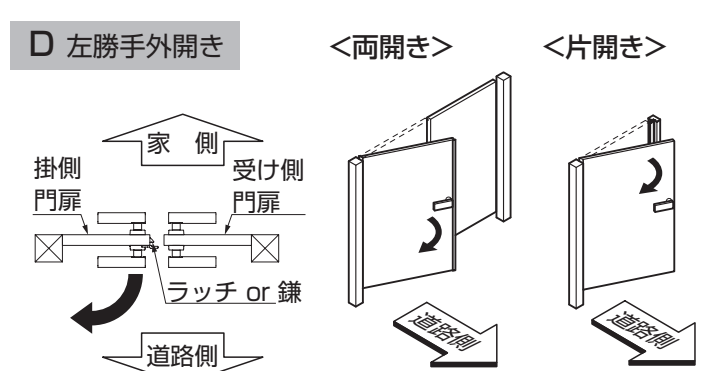
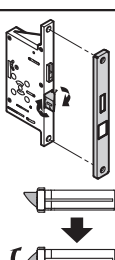
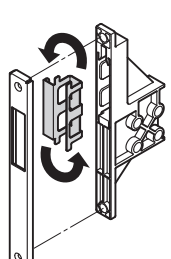
- シリンダーにキーを差し込んだまま、施工を行わないでください。
そのまま施工を行うと、施解錠操作をしてもキーが抜けなくなったり、ハンドルが動かなくなります。
上記の対処方法は、の「**■**誤ってキーが抜けなくなった場合(P.12)」を参照してください。

**キーを差した状態で
施工しない!!**



2. 勝手別の取付変更について

●以下の勝手タイプ別の組替え手順にしたがって、勝手に組替えてください。

勝手タイプ	①PB錠のみ ラッチ変更	②錠受けの取付と キズ防止プレートの 組替え
<p>A 右勝手内開き</p> <p><両開き> <片開き></p> 	<p>※組替えは 必要はありません。</p>	<p>※組替えは 必要はありません。</p>
<p>B 右勝手外開き</p> <p><両開き> <片開き></p> 	 <p>※PB錠のみ ラッチの向きを変更します。</p> <p>⇒P.6 「3-1 ラッチの組替え (PB錠のみ)」</p>	 <p>⇒P.6 「3-2 キズ防止プレートの組替え」</p>
<p>C 左勝手内開き</p> <p><両開き> <片開き></p> 	<p>※組替えは 必要はありません。</p>	<p>※組替えは 必要はありません。</p>
<p>D 左勝手外開き</p> <p><両開き> <片開き></p> 	 <p>※PB錠のみ ラッチの向きを変更します。</p> <p>⇒P.6 「3-1 ラッチの組替え (PB錠のみ)」</p>	 <p>⇒P.6 「3-2 キズ防止プレートの組替え」</p>

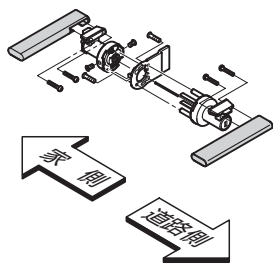
③

錠の取付け(機構部、両錠受け・片錠受け) P.7
3-3
へ

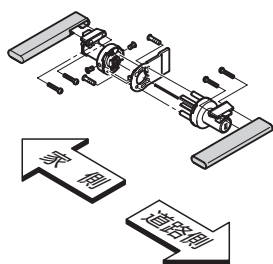
④ ハンドルの組替え

※組替えは
必要はありません。

※組替えは
必要はありません。



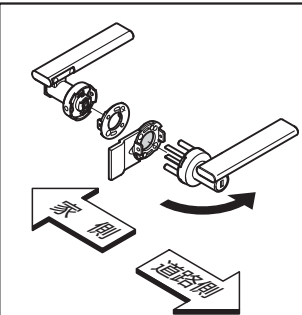
⇒P.8
「4-1. ハンドルの組替え」



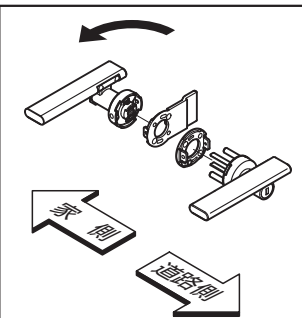
⇒P.8
「4-1. ハンドルの組替え」

⑤ 戸当たり・化粧座カバーの組替え

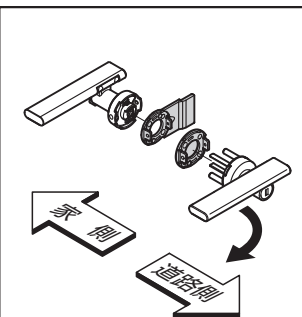
※組替えは
必要はありません。



⇒P.9
「4-2 戸当たり・化粧座カバーの組替え」



⇒P.9
「4-2 戸当たり・化粧座カバーの組替え」



⇒P.9
「4-2 戸当たり・化粧座カバーの組替え」

⑥ 角軸の組替え

※組替えは
必要はありません。

※組替えは
必要はありません。



⇒P.10
「4-3 角軸の組替え」



⇒P.10
「4-3 角軸の組替え」

⑦

門扉へ錠、ハンドルの組付け
P.11
へ

3. 錠（機構部、両錠受け・片錠受け）の取付け

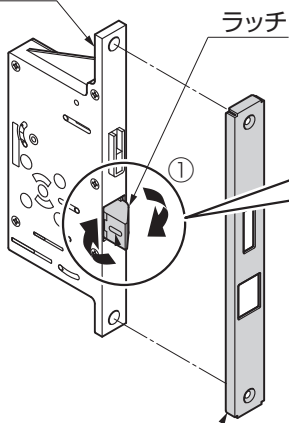
3-1 ラッチの組替え(PB錠のみ)

- ①フロントカバーを外しラッチを回転させて向きを変更してください。
- ②再度フロントカバーを取付けてください。

B 右勝手外開き **C 左勝手内開き** の場合

PB錠(機構部)

ラッチ

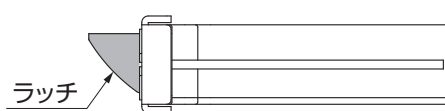


フロントカバー(掛け側)

(※出荷状態)

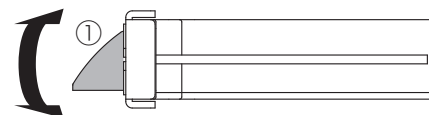
A 右勝手内開き

D 左勝手外開き



B 右勝手外開き

C 左勝手内開き



3-2 キズ防止プレートの組替え ※図はPA錠を示します。PB錠も同様に交換してください。

- ①フロントカバーを外しキズ防止プレートを回転させて向きを変更してください。
- ②再度フロントカバーを取付けてください。

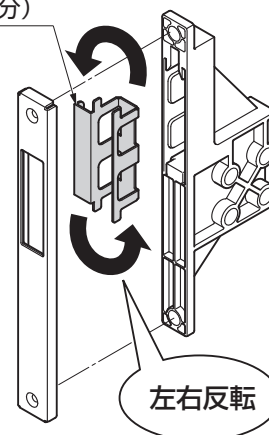
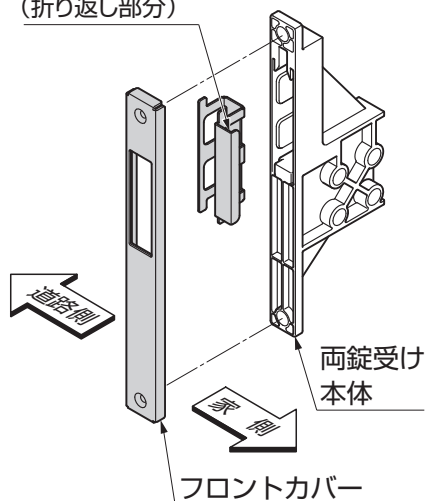
(※出荷状態)

A 右勝手内開き **D 左勝手外開き** の場合

B 右勝手外開き **C 左勝手内開き** の場合

キズ防止プレート
(折り返し部分)

キズ防止プレート
(折り返し部分)



ポイント

- 両錠受け、片錠受けには、取付けの向きがあります。開閉の際に鎌、もしくはラッチがキズ防止プレート(折り返し部分)に当たる向きに取付けてください。

3. 錠（機構部、両錠受け・片錠受け）の取付け（つづき）

3-3 錠の取付け

※図はPA錠・右勝手内開きを示します。扉の勝手が右勝手内開き以外の場合は「2. 勝手別の取付変更について」を参照して錠の勝手を変更してください。

(1) 両開き

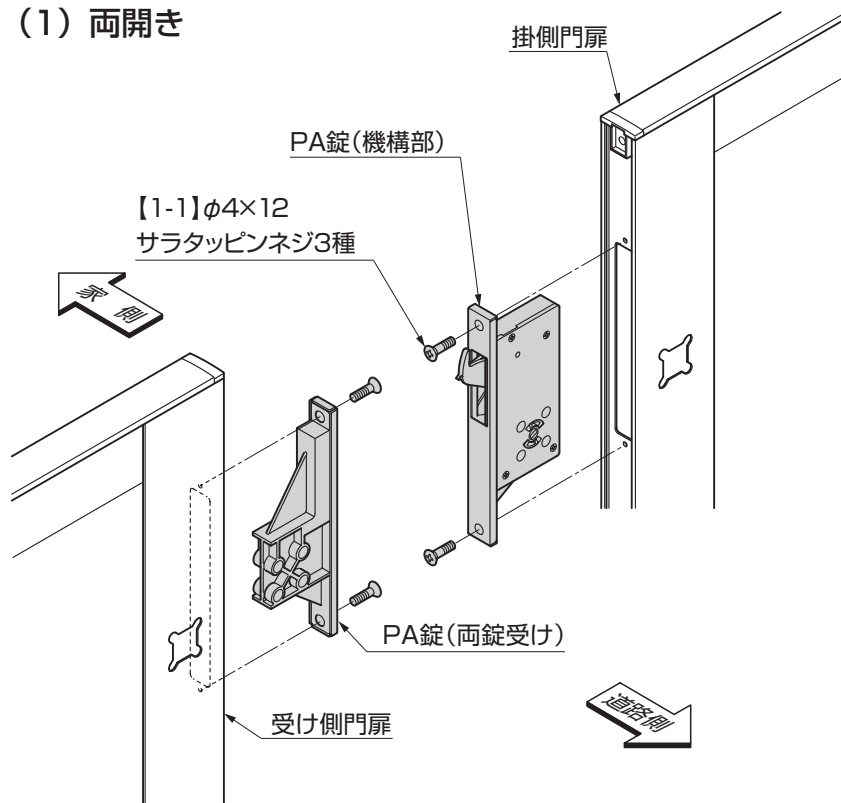


図3-1

①図3-1にしたがってPA錠（機構部）、PA錠（両錠受け）を【1-1】で取付けてください。

ポイント

- 組付け推奨トルク：2.0N・m±0.5N・m（20±5kgf・cm）
- 親子扉の際、受け側門扉にはPA錠（片錠受け）を取付けます。取付方法はPA錠（両錠受け）と同様です。

(2) 片開き

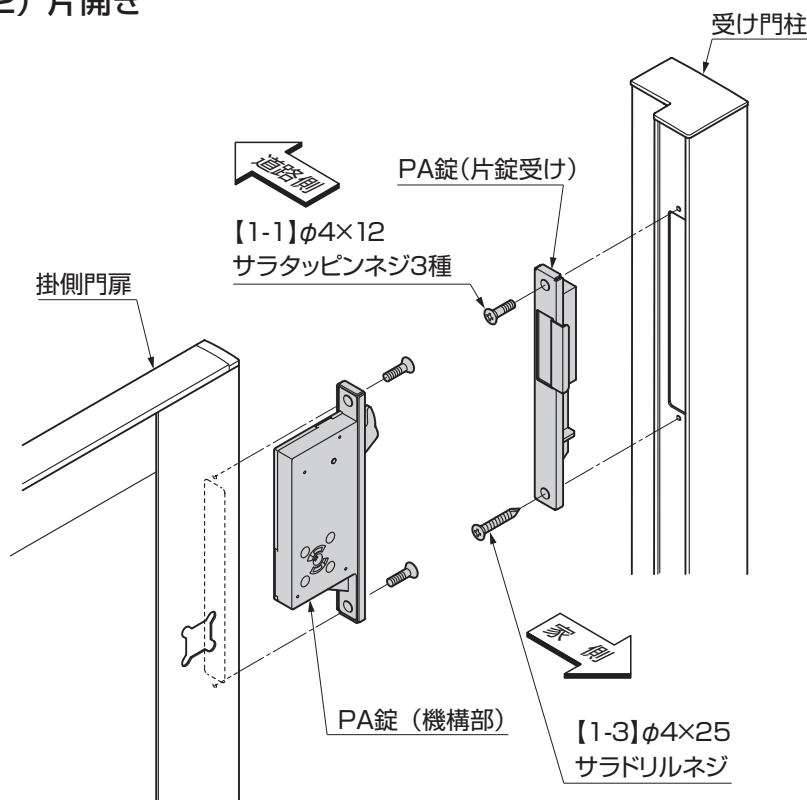


図3-2

ポイント

- 取付ネジの頭が片錠受けより出っ張らないように取付けてください。

①図3-2にしたがってPA錠（機構部）と、PA錠（片錠受け）の上側を【1-1】で取付けてください。次にPA錠（片錠受け）の下側を【1-3】で取付けてください。

ポイント

- 組付け推奨トルク：2.0N・m±0.5N・m（20±5kgf・cm）

4. 勝手の変更 (つづき)

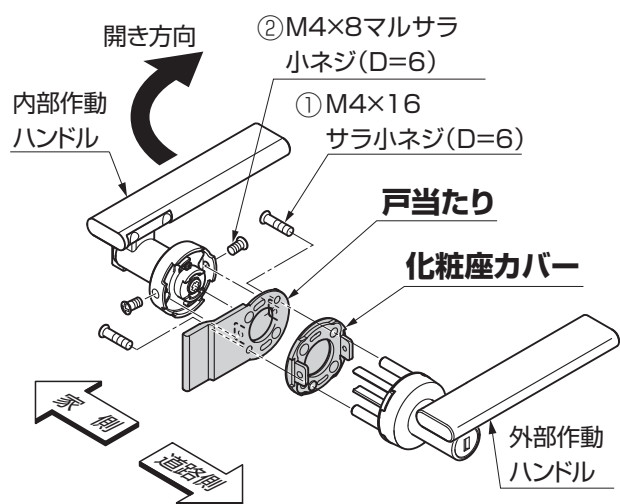
4-2 戸当たり・化粧座カバーの組替え ※作動側のみの作業になります。

B 右勝手外開き **C 左勝手内開き** **D 左勝手外開き** の場合

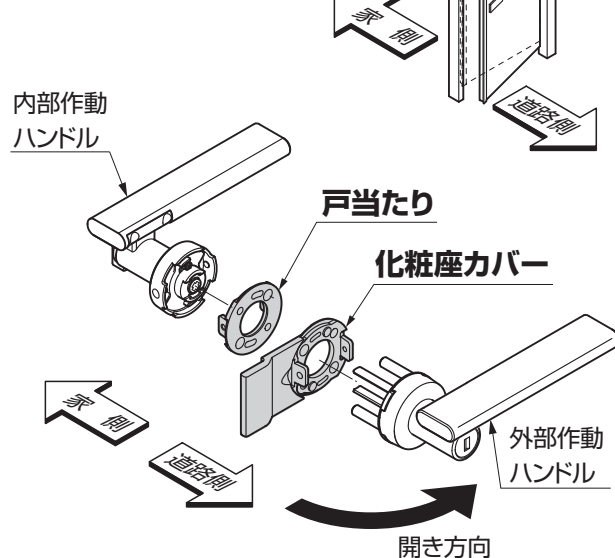
- ①内部作動ハンドルの取付ネジ(M4×8マルサラ小ネジ(D=6))を緩めてください。
- ②内部作動ハンドルの取付ネジ(M4×16サラ小ネジ(D=6))を緩めてください。
- ③外部作動ハンドルと内部ハンドルを一旦取外してください。
- ④各勝手タイプの図にしたがって、戸当たりと化粧座カバーの向きを変えてください。
- ⑤【B 右勝手外開き】は②～①の順に取付ネジを締め直してください。
【C 左勝手内開き】【D 左勝手外開き】はハンドル向きの組替えてください。
(「4-1 ハンドルの組替え(P.8)」参照)

(※出荷状態)

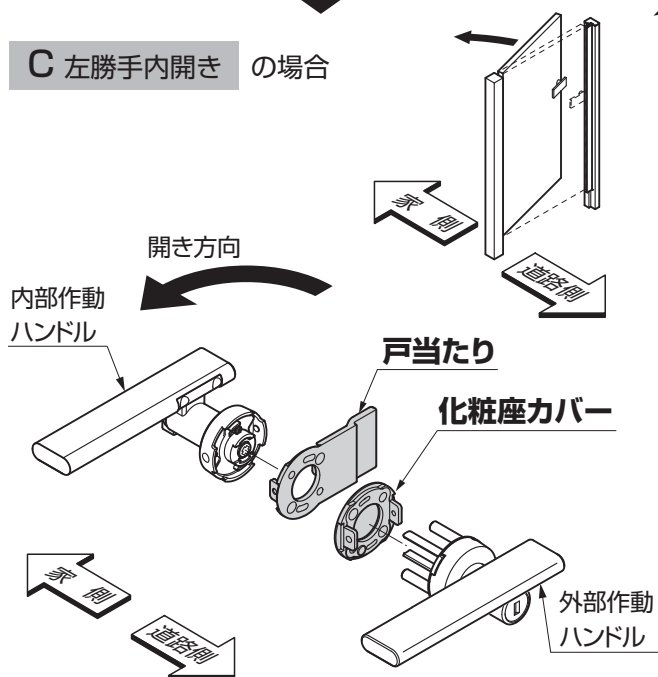
A 右勝手内開き の場合



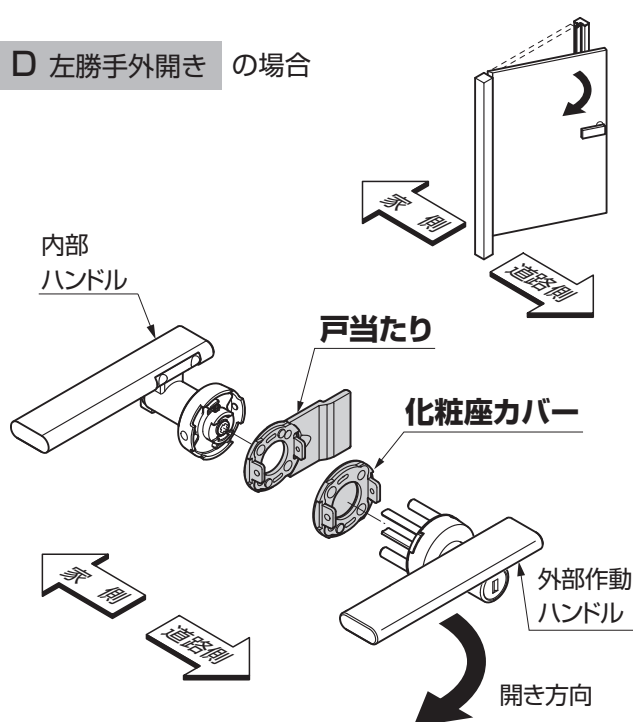
B 右勝手外開き の場合



C 左勝手内開き の場合



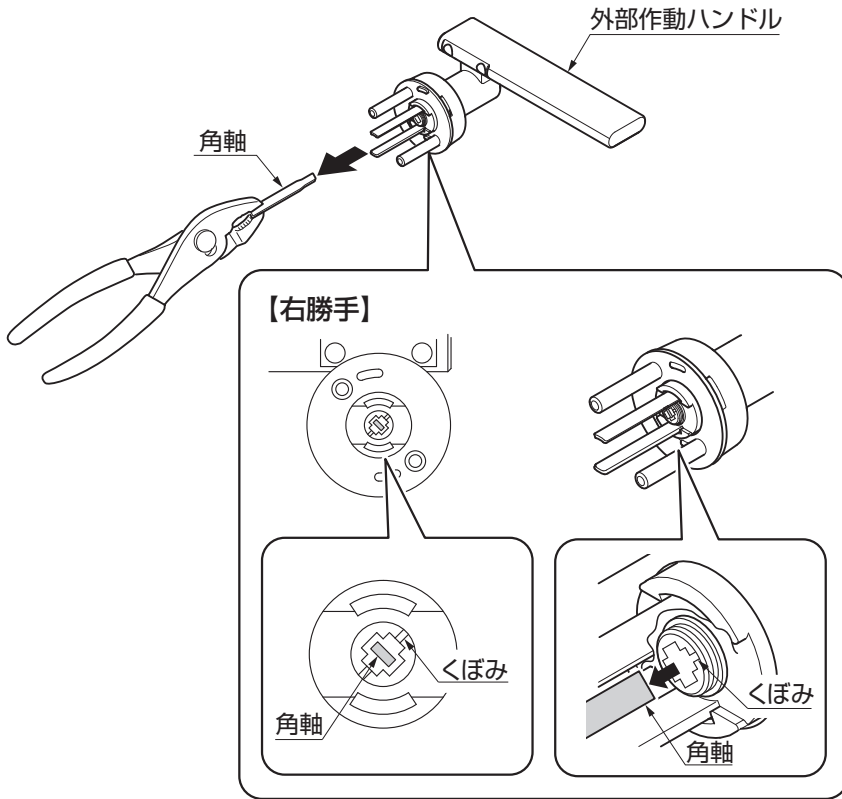
D 左勝手外開き の場合



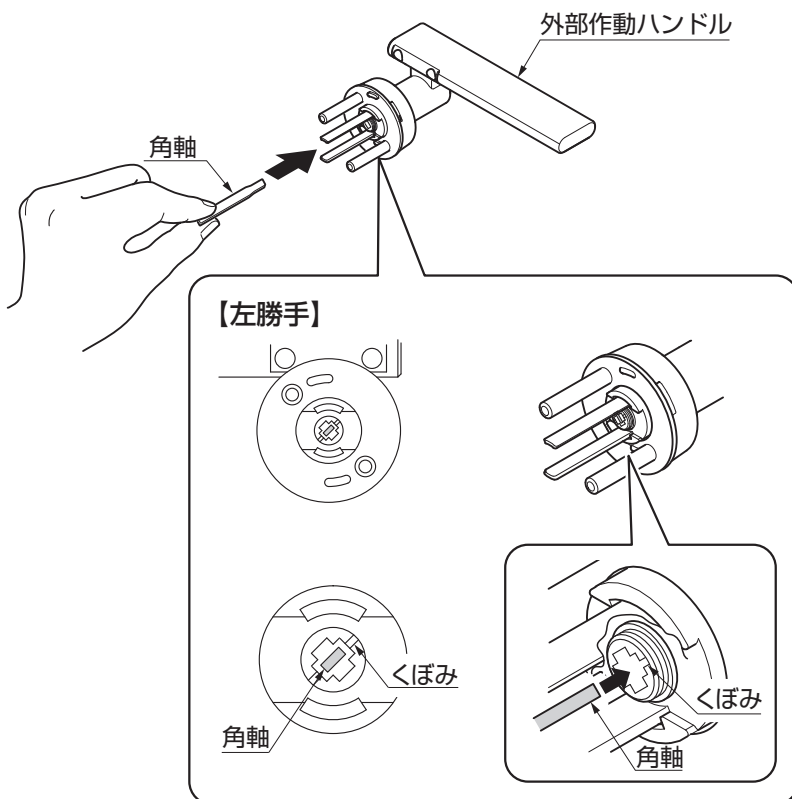
4. 勝手の変更 (つづき)

4-3 角軸の組替え

C 左勝手内開き D 左勝手外開き の場合



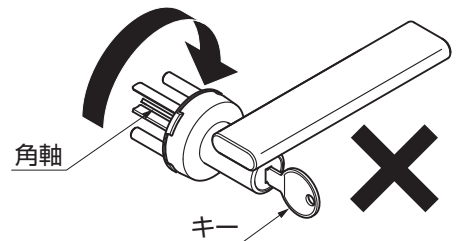
①ペンチ等を使用して角軸を抜いてください。



②十字孔にくぼみがある側に、手で角軸を差し替えてください。

⚠ 注意

- ②の角軸を差し込む際、ペンチ等の道具は使用しないでください。シリンダー部が破損して抜けてしまうおそれがあります。
- シリンダーにキーを差し込み、半回転キー操作をすることによって角軸の向きを変えないで下さい。そのまま施工を行うと、施錠操作をしてもキーが抜けなくなったり、ハンドルが動かなくなります。**必ず角軸を抜いて差し替えを行ってください。**



キーを差して角軸の向きを変えない!!

※図は右勝手内開き・PA錠を示します。扉の勝手が右勝手内開き以外の場合は、「2. 勝手別の取付変更について」にしたがって錠の勝手を変更してください。

5. ハンドルの取付け

ポイント

- 角軸を、角軸孔に確実に差込んで固定してください。
- 組付け推奨トルク：2.0N・m±0.5N・m(20±5kgf・cm)

注意

- シリンダーキーを差し込んだまま取付けを行わないでください。シリンダーキーが抜けなくなります。

5-1 両開き

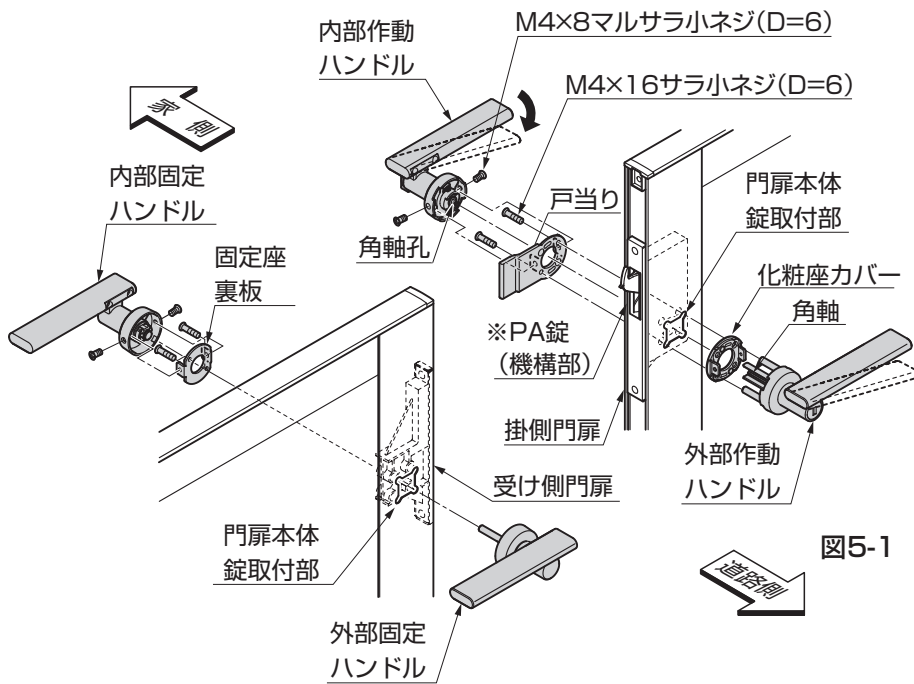


図5-2

- ①外部作動ハンドルに、化粧座カバーを通し、錠取付け部に差し込んでください。(図5-1参照)
- ②戸当たりを外部作動ハンドルに取り付け、内部作動ハンドルを平行に取り付けてください。(図5-1参照)
- ③ハンドルを傾けて、鎌(PB錠の場合はラッチ)が引っ込む動作を確認します。(図5-1参照)
- ④図5-2にしたがって、受け側門扉に固定ハンドルを取付けてください。

補足

- PB錠の場合は以下の掛側門扉になります。



5-2 片開き

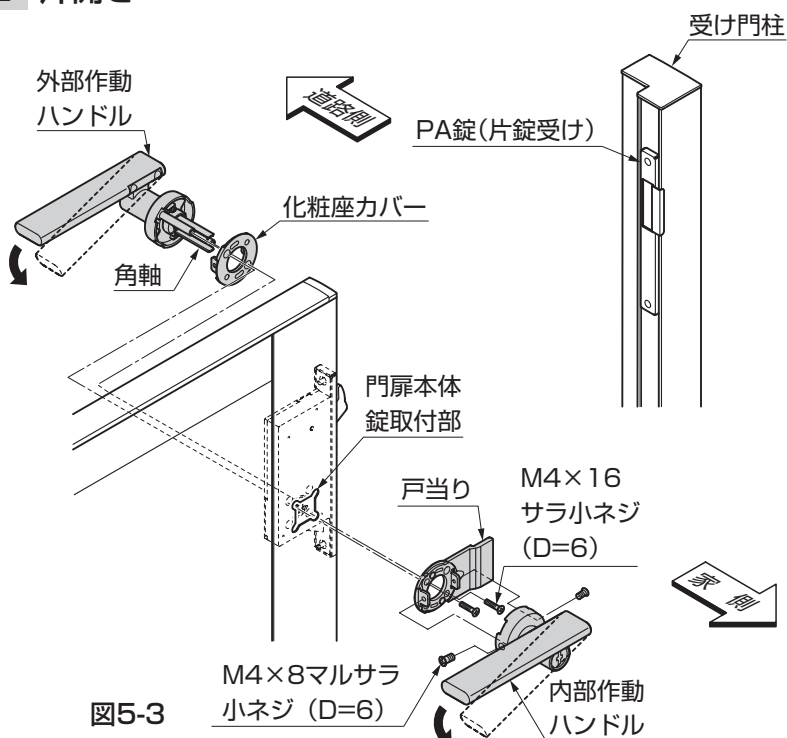
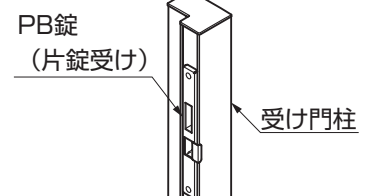


図5-3

- ①化粧座カバーを取付け、外部作動ハンドルを平行に取り付けてください。(図5-3参照)
- ②戸当たりを取付け、内部作動ハンドルを平行に取り付けてください。(図5-3参照)
- ③ハンドルを傾けて、鎌(PB錠の場合はラッチ)が引っ込む動作を確認します。(図5-3参照)

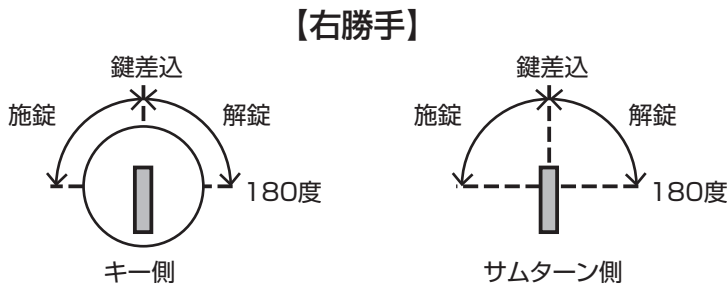
補足

- PB錠の場合は以下の受け門柱になります。



6. エマージェンシー機構の操作確認とサムターンへの変更

6-1 施錠・解錠の可動域確認



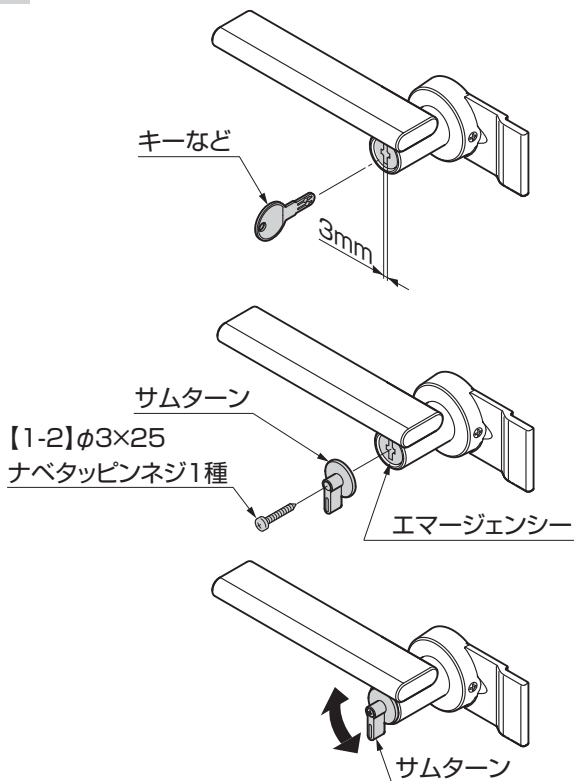
⚠ 注意

- 勝手変更により鍵による操作・サムターン操作の回転方向が変わる場合があります。
- 操作方法に注意して無理な負荷をかけないように注意してください。シリンダーの破損の原因になります。

🔑 ポイント

- 施錠・解錠の有効な可動域は180度以内です。
- 180度線以上キーを回転させた場合、無理な負荷がかかります。

6-2 操作確認とサムターンの変更



- ① 施錠・解錠するには、3mm幅の溝に入るキーの先端やコイン、マイナスドライバーなどを差込んで回転してください。

✎ 補足

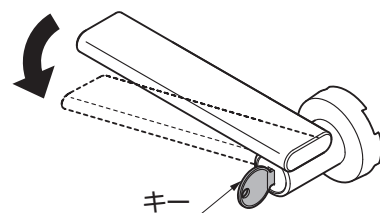
- エマージェンシー機構は、家側からの施錠・解錠操作が素手ではできないので、外側から手を伸ばして解錠する、等のいたずらを制約することができます。
- エマージェンシー機構は、いたずらのある程度抑止できますが、部外者の解錠操作を完全に防止するものではありません。
- 出荷段階ではサムターンは取付いていません。必要に応じて取付けてください。

- ② サムターンへ変更する場合は、【1-2】でサムターンを取付けてください。
- ③ サムターンを回して、施錠・解錠の操作を確認してください。

■ 誤ってキーが抜けなくなった場合

🔑 ポイント

キー操作・ハンドル操作は行わずに、一度扉から取外してください。
取外した状態でキーを抜いてください。
キーを抜いた状態で再度、扉に取付けを行ってください。



取説コード

A589

JZZ626851F
201401A_1047
202009G_1049